

先人の功績を解き明かし、地域社会への誇りと愛情を育む社会科学習 ～身近な地域の先人、そして千葉市の先人を通して見えてくる地域社会～

1 設定理由

これからの社会を担う子どもたちには、地域社会への誇りと愛情を持ち、よりよい社会を主体的に形成していく力が求められている。そこで、先人の功績を子ども自らが解き明かす問題解決的な学習を行うことによって理解を深め、地域社会への誇りと愛情を育てることとした。昔の人々の苦心や努力がよりよい地域社会をつくり、その歴史の上に今の生活が成り立っているという認識を持つことができるようにすることが、地域社会への誇りと愛情を育むと考え、本主題を設定した。

2 研究仮説

《仮説1》身近な地域素材を教材化し、先人の苦心や努力を子どもが主体的に解き明かす学習活動を展開すれば、歴史的事象が今の生活とつながっていることに気づき、先人の功績に対する理解を深めることができるだろう。

《仮説2》先人の功績について、子どもが自ら課題を設定し、協働的に追究する活動を展開すれば、よりよい社会は人々の苦心や努力によってつくられてきたことについて考え、地域社会への誇りと愛情を育むことができるだろう。

3 研究内容

地域素材や具体的な資料、調査活動を通して子どもが主体的に学習を進めることで、身近な地域の先人の功績への理解を深める。その上で、自ら課題を設定し、先人の功績について協働的に追究する学習過程を工夫することにより、先人の功績に対する理解を深め、よりよい社会は人々の苦心や努力によってつくられてきたことに気づき、地域社会への誇りと愛情を育む社会科学習のあり方を追究する。

4 結論

○身近な地域の先人の功績について、子どもが主体的に明らかにする学習を進めることで、先人の功績への理解を深めることができた。調査活動や具体的な資料を活用して課題を解決していく学習を、単元を通して行ったことにより、先人の苦心や努力を実感的に理解することができた。

○子どもが自ら設定した課題に対して先人の功績を追究する学習を協働的に展開したことで、先人の苦心や努力によってよりよい地域社会が作られてきたことを考えることができた。単元の終末では、先人たちの苦心や努力が人々の生活をよりよいものにし、自分たちの生活がその歴史の上に成り立っていることを理解し、地域社会への誇りと愛情が育まれた。

千葉市教職員組合
千葉市立鶴沢小学校
元吉 佑樹
庄司 直哉

1 研究主題

先人の功績を解き明かし、地域社会への誇りと愛情を育む社会科学学習

～身近な地域の先人、そして千葉市の先人を通して見えてくる地域社会～

2 主題設定の理由

(1) 現代社会の要請から

少子高齢化の進行により、我が国は人口減少の一途をたどっている。そのことに起因する社会的な問題が、様々に議論されている。千葉市でも、2020年をピークに人口が減少に転じる見込みとなっている。人口の流入が激しく起こり、昔ながらの土地に住む人々も減少していると指摘されている。このような環境の中では、地域社会に誇りと愛情をもち、「住み続けたい」と感じる人は少なくなっていくと考えられる(資料6)。その土地固有の歴史やルーツが語り継がれる機会も減少し、地域社会ならではの「よさ」は失われていくことが予想される。千葉市では、こうした流れに歯止めをかけるべく、都市アイデンティティ戦略プランを策定し、市民が市の魅力を再認識できるようとりくみを進めている。

これからの社会を担う子どもたちには、よりよい社会を創造する力を育てたい。よりよい社会は、人々の苦心や努力の積み重ねによってつくられてきた。その歴史を学び、地域社会への誇りと愛情を育むことは、一人ひとりの役割を理解し、自分も社会に関わっていこうとする将来的な態度へとつながっていくだろう。地域の歴史に触れる機会が減ってきている現在、人々が生活を営んでいくための工夫や努力を学習する社会科は、大きな使命を背負っていると言える。社会科の学習を通して、子どもたちに地域社会への誇りと愛情を育むことは、このような現代社会の要請に応えていくものであると言える。

(2) 子どもの実態から

千葉市立鶴沢小学校は千葉市の中心部からほど近い場所に位置する。行政・医療・教育などの様々な面から長きに渡って市の発展を支えてきた機関が集中し、学区にはそのような地域の歴史を記す建造物や石碑なども数多く残されている。子どもたちが具体的な人物や資料を活用しながら、問題解決的に社会科学学習を進めるに適した環境であると言える。

本学級の子どもは総じて学習に対する意欲が高く、地域の歴史についても8割が「知りたい」と答えている。一方、地域の歴史について「知っている」と答えた子どもはほとんどおらず、また、「どのように調べたらよいかわからない」と答えた子どもも半数弱いた。これらのことから、「地域の歴史について関心があるが、学べる環境がなく、どのように学べばよいかわからない」という実態が浮かび上がってきた。地域に対して感じている魅力についても、歴史的事象に言及したものは出されなかった(資料1)。

そのような子どもたちに、本単元を通して人々が築き上げてきた歴史の上に今の生活が成り立っているという認識を持たせ、地域社会に対する誇りと愛情を育てたい。歴史的事象について学ぶことで、地域社会は人によってつくられてきたことや、一人ひとりが社会に関わることの大切さに気付くだろう。そのような歴史の上に成り立つ地域社会を大切に思ったり、よりよい地域社会をつくってきた人々へ感謝の気持ちを持ったりする姿が育つと考えた。その姿は将来、自分自身がよりよい社会をつくるために関わっていこうとする態度へとつながっていくだろう。

3 主題について

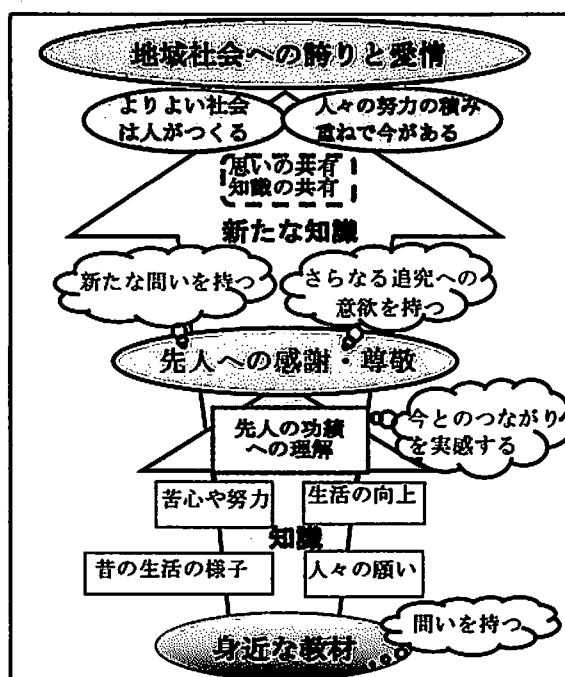
(1)「誇りと愛情」とは

本実践を通して育みたい誇りと愛情とは、「先人の苦心や努力が地域社会をよりよいものにしてきた」という理解の上に育まれる感情であると捉える。地域社会が、人々の営みによってつくられる過程で先人が感じた苦心や積み重ねた努力を具体的に学ぶための素材が、先人の功績である。子どもたちは、先人がよりよい地域社会をつくるために行動したり、それによって人々の生活が向上したりした歴史的事象から「よりよい地域社会は、人の手でつくられてきた」ということに気付くことができると考えた。その結果、地域社会に対する認識が、「当たり前」に存在しているものから「人々が作り上げてきたもの」へと変わるだろう。そのようにして成り立ってきた地域社会に対して、子どもたちが以下のような思いを抱けるようにしていきたい。

- ・自分がこの地域に住んでいることを自慢できる。
- ・地域社会や人々のよりよくするために努力してきた人たちに感謝したい。
- ・人々が苦心や努力を積み重ねてよいものにしてきたこの地域を大切にしていきたい。

本単元では、このような思いが子どもの内から湧き出てくることをねらう。

そのためには、地域社会の歴史と自分の生活とのつながりを実感し、自分ごととして捉えることができるようにする必要がある。本単元では、地域に点在する史料を活用することで自分の生活と学習を結びつけながら学ぶことを大切にしたい。また、先人の功績への理解を深めるためには、様々な知識を身につけ、それぞれを関連させながら歴史的事象の意味を考えることが求められる。それには、友だちと力を合わせて課題を解決する、協働的な追究プロセスが有効であると考え。協働的に学ぶことで、一人では得られなかった知識を得たり、新たな考えを生み出したりしながら、より具体的に先人の功績に迫り、単元の後半には、よりよい社会が人の手によってつくられたことを理解することができるだろう。



よりよい社会をつくるために、人が苦心や努力を重ねてきた歴史を学んだ子どもたちは、一人ひとりが社会に関わる重要性を実感することができる。その実感は、やがてよりよい地域社会をつくる役割を担っていこうとする姿勢へとつながっていくだろう。本単元で子どもたちの地域社会への誇りと愛情を育むことは、これからの社会の担い手としての意識を育む第一歩となると考える。

(2) 身近な地域の先人、そして千葉市の先人を通して学ぶ

身近な地域の先人について学ぶことで、子どもたちは学習を自分ごととして捉え、その功績を解き明かし、先人の功績に対して感謝や尊敬の念を持つと考えられる。しかしそこにとどま

らず、本単元でねらう地域社会への誇りと愛情を育むには、さらなる手立てが必要である。先人の功績が今とつながっていることに気付いた子どもたちは、「さらに学習を深めたい。」「他の事例について学びたい。」という意欲を持つだろう。それは、今の生活がどのようにして成り立ってきたのかを主体的に追究していこうとする姿の表れである。そこで、単元の後半の「いかす」過程では子ども自身が調べる先人を決め、その功績を追究する活動を設定する。そこでは、子どもたちが自分とのつながりを実感できると考えられる千葉市内の先人について扱うこととする。布施丹後の功績について理解した子どもたちは、「先人の苦心や努力が人々を救ったのではないだろうか。」という視点を持って学習を進めることができるだろう。どの先人も苦心や努力を重ね、その結果人々の生活が向上したことを理解することにより、自分たちの今の生活が人々の苦心や努力の積み重ねによってつくられてきたことに気付くことができ、地域社会への誇りと愛情を育むことができると考えた。

4 教材について

【学区地域の先人・布施丹後】学区近くにある千葉寺(せんようじ)には、布施丹後守常長(以下、布施丹後)の功績を称え、今に伝える石碑がある(資料5)。それらによると、学区やその周辺地域では、江戸時代には生産性の低い谷津田が広がっており、度々都川が氾濫して農作物が被害を受けていた一方で、下流にある村々には水が行き届かず、ほとんどが荒地であったとされている(資料3)。このような状況の中、土地の生産性を上げ、貧しい人々を救おうと立ち上がったのが、下流の寒川村の名主であった布施丹後である。布施丹後は積年の問題を解決するため、当時の領主の許しを得て工事を始め、1625年5月9日、13年の歳月と延べ7000人の労力を使って堰と用水路を完成させた(資料2)。この治水工事により生産力が飛躍的に増大した記録も残されており、その功績を讃えて「丹後堰」「丹後用水」と名付けられ、以後300年に渡って人々の生活を支えてきた。今では堰の機能は失われ、用水路は下水道として一部が使われているのみである。地域にとって重要な史跡であるにも関わらず、知名度は低い。しかし、堰は公園として、用水路は暗渠として残されており、今も目で見て確認をすることができる。暗渠となった用水路をたどって登校する子どもたちもいるが、今まで通っていた道の下に史跡があることを知った子どもたちは驚くだろう。300年以上前の人の営みと布施丹後の功績を調べながら、自分たちが住んでいる土地の歴史について、深い関心を抱いて追究することができると思った。

【千葉市の先人について】千葉市には、先人の功績を称える石碑が数多く残されている。それらは布施丹後の例と同じように先人と人々が地域社会をつくった歴史を伝えるものである。「いかす」過程では、そのような千葉市の先人の功績(資料18)を調べ、まとめる活動を通して人々の苦心や努力が地域社会をよりよいものにしたことを理解できるようにしたい。

5 研究の目標

身近な地域の先人の功績について、地域に残る史跡や具体的な資料を用いて調べ、先人の苦心や努力が人々の生活を向上させてきたことへの理解を深める。そして、子どもが自ら設定した課題を追究することを通して、昔の人々の苦心や努力がよりよい地域社会をつくり、今の自分たちの生活はその歴史の上に成り立っているということに気付くことによって、地域社会に対する誇りと愛情が育つことを、実践を通して明らかにする。

6 研究の仮説と手立て

【仮説1】身近な地域素材を教材化し、先人の苦心や努力を子どもが主体的に解き明かす学習活動を展開すれば、歴史的事象が今の生活とつながっていることに気づき、先人の功績に対する理解を深めることができるだろう。

手立て① 追究意欲を喚起し自分ごととして捉える、身近な地域素材を活用した導入の工夫

子どもが主体的に学ぶためには、単元の導入場面でどのような課題を設定するかが大切である。本研究では、身近な地域素材を活用した調査活動を行うことによって、子どもが学習を自分ごととして捉え、本気で追究したくなる課題を発見することができると思う。

学区近くにある千葉寺には、布施丹後の功績を称える石碑が置かれている。堰や用水路の歴史的価値を伝える貴重な資料であるが、4年生にとっては書かれていることの全てを理解することは難しい。これを「謎の石」と名付け、「わかりそうで、わからない」ということを利用して子どもの想像力をかき立てて追究意欲を高めるようにする。わずかに読むことのできる情報の中には周辺地域の地名も登場することから、自分たちの生活とのつながりに気付くことができるであろう。300年を経た今も功績が語り継がれている理由について、「解き明かしたい」という意欲を高めて追究することができると思う。

手立て② 今と昔の違いに気づき、人々の苦心や努力を理解する具体的な資料の活用

当時の人々の苦心や努力を理解するためには、堰や用水路の位置が地形と深く関係していることや、人々の生活が今とは全く異なっていたことに気付く必要がある。

そのためにまず、古地図と立体模型を活用し、堰と用水路はどこにつくられたのかを予想する活動を行う。史料を根拠にして自分の考えを持つことで、追究意欲を高めたい。工事は最短距離で進めたいが、そこには高台がある。その高台に家が建っている子どももいるため、用水路を通すことができないことは容易に想像がつく。子どもたちは高台を迂回して用水路を引く道を予想すると考えられる。次に工事に使われた農具を手に取り、工事の様子を想像する。それにより、頼りない作りの農具では地面は簡単に掘ることができないことや、工事にはたくさんの人手や期間を要したことなどがわかるだろう。重機などない時代に大きな工事がたくさんの人の手で長い時間をかけて行われたこと等、今と昔の違いに気付くことで、人々の切実な願いや苦心・努力をより具体的に理解することができると思う。

手立て③ 先人の苦心や努力について実感を持って理解する、H先生とのフィールドワーク

教材について、本物を見たり触れたりすることができる調査活動は、最も子どもの意欲を喚起することができ、問題解決的な学習を進める上で重要な位置付けとなる。しかし、堰や用水路の実物から得られる情報には限りがあり、見学をするだけで課題を解決することは難しい。

そこで、H先生と共に調査活動を行うこととする。H先生は幼少期に用水路沿いに暮らし、現在は堰と用水路を含めた地域の歴史を研究している方である。H先生を招いて史跡を案内してもらうことで、活動中に抱いた疑問や、見るだけではわからなかったことを質問し、理解を深めることができるようにする。そうすることで、調査活動が自分の考えを確かめ、課題を解決させるための主体的な学習となると考えた。実物を見て感じたことや新たに生まれた疑問もH先生に質問し、解決していくことで、手作業でつくった堰と用水路の規模やそれらが生活に役立ってきた事実がわかり、人々の苦心や努力、先人の功績について実感を持って理解することができるだろう。

【仮説2】先人の功績について、子どもが自ら課題を設定し、協働的に追究する活動を展開すれば、よりよい社会は人々の苦心や努力によってつくられてきたことについて考え、地域社会への誇りと愛情を育むことができるだろう。

手立て① 子どもが自ら課題を設定し、先人の功績を追究する「いかす」過程の設定

これまでに子どもたちは、身近な地域の先人について追究意欲を持ち、具体的な資料を活用したり調査活動を行ったりして、布施丹後の功績に対して理解を深めている。そのことにより、「布施丹後の功績のおかげで生活が向上し、今につながっている。」ということに気付き、感謝の気持ちや尊敬の念が育っているだろう。本単元では、「いかす」過程を設定し、さらに学習を進めることで、よりよい地域社会は、人々の苦心や努力によってつくられたことがわかるようにし、「先人への感謝・尊敬」の念を「地域社会の誇りと愛情」へと高めたい。

ここまで主体的に課題を解決する活動を積み重ねてきた子どもたちは、布施丹後の功績についてまとめた後も、先人の功績を追究する意欲が高まっていると考える。そこで、「いかす」過程では子どもが自ら課題を設定し、先人の功績を追究する学習を進めることとする。「布施丹後以外で人々を救った人物について調べたい。」という意欲を持った子どもに対しては、千葉市にゆかりがあり、苦心や努力で人々を救った先人について学ぶことができるようにする。一方で、「布施丹後の功績についてもっと調べたい。」という意欲を持った子どもに対しては、これまでの学習で解決できなかった課題を想起させ、追究することで、布施丹後の功績についてより深く理解することができるようにしていきたい。

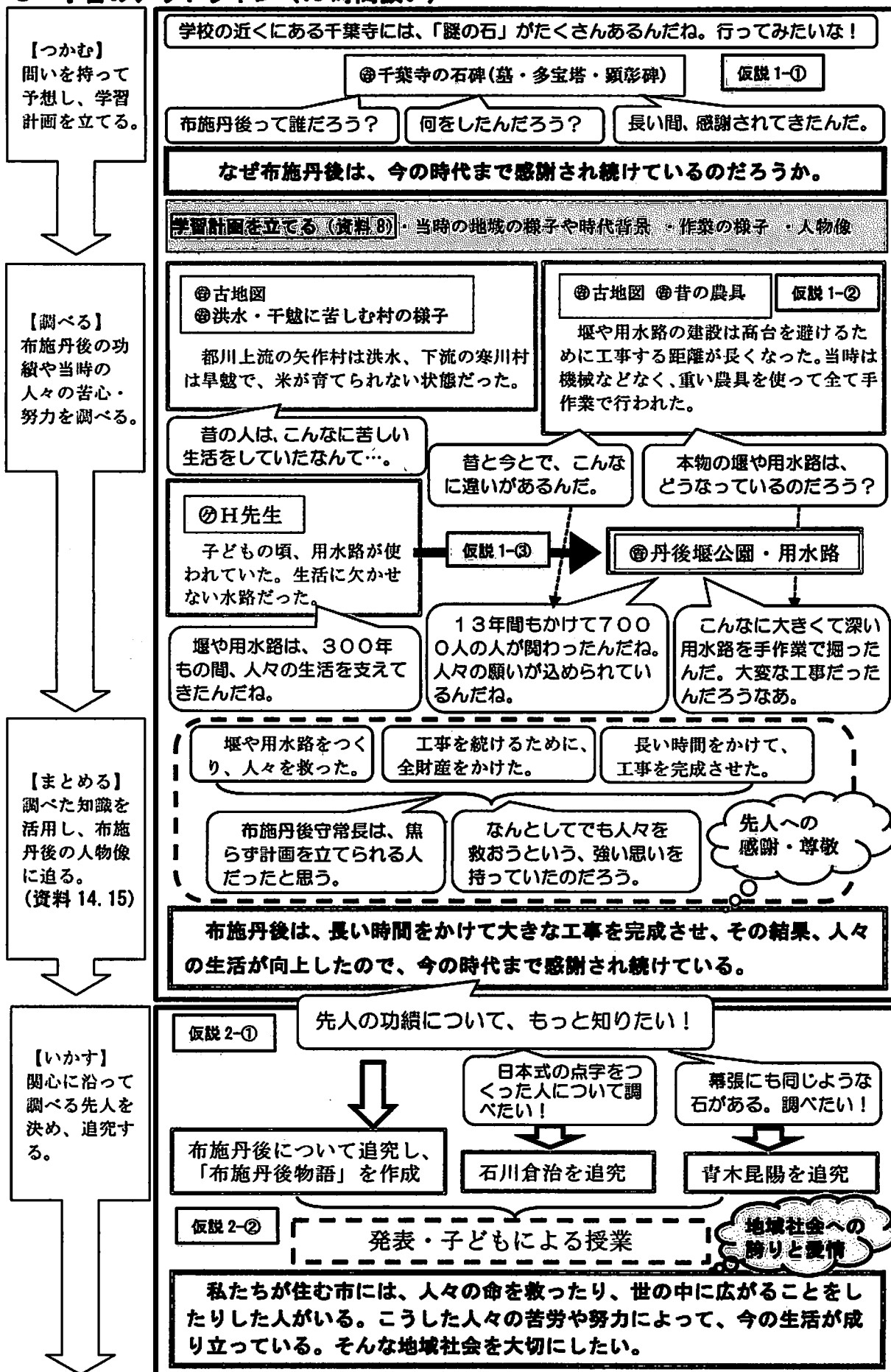
手立て② 追究した先人の功績を伝え合い、今とのつながりを考える振り返りの場の設定

「いかす」過程で布施丹後以外の先人の功績を追究した子どもたちは、「布施丹後と同じように、人々を救って生活を向上させた人が他にもいた。」ということを理解していると考え。また、布施丹後の功績をさらに追究した子どもたちは、「よりよい地域になったのは布施丹後だけではなく、その土地に住む人々の努力があった。」ことを理解していると考え。そこで、より理解が深まった子どもたちどうしが調べたことを伝え合い、学習を振り返る場を設定する。それぞれがわかったことを伝え合い、振り返ることによって、「地域社会をよりよくしてきたのは人々の苦心や努力であり、今の社会はそうした歴史の積み重ねの上にある。」というように、今とのつながりについて考えることができるだろう。一人ひとりの子どもがこのような考えを持つことができるよう振り返りの場を設定することで、歴史が積み重なった地域社会への誇りと愛情が育まれると考える。

7 単元の目標

- 先人の働きに関心を持って調べ、地域の発展や生活の向上が先人をはじめとする様々な人々の苦心や努力によるものであることを理解し、地域社会への誇りと愛情を育むことができる。
- 具体的な史料や調査活動などで調べたことをまとめるとともに、地域の人々の願いや生活の向上と先人の働きとを関連付けて考え、人々の苦心や努力によってよりよい地域社会がつくられてきたことを、適切に表現することができる。

8 学習のアウトライン (13 時間扱い)



9 仮説の検証と授業の実際

【仮説1】

手立て① 追究意欲を喚起し自分ごととして捉える、身近な地域素材を活用した導入の工夫

C:「謎の石」の解読は難しかったけれど、友だちと手分けしたらたくさんのことがわかったよ!

(資料7)

T:一人ひとりがわかったことをまとめたら、書いてあったことがはっきりしそうですね。

謎の石には、布施丹後が「悲惨の人々の命をみて、全財産をかけた」って書いてあったよ。何かすごいことをした人みたいだね…

石には、「矢作」と書いてあった。私が住んでいる場所で、昔あった出来事なのだと思う。

300年以上も前のことなのに、時代ごとに記念碑が建てられていたよ。布施丹後のしたことは、今の時代まで続いているのかな。



【調べた情報を整理し、石碑の解読を行う。】

千葉寺の「謎の石」から得た情報を教室に持ち帰り共有する(資料7)ことで、自分たちの住んでいるこの土地では、人々が苦しんでいたかもしれないこと、「布施丹後」という人物が関わっているらしいこと、その人物の行ったことは今も感謝され続けていることなどがわかった。古い石に刻まれていた出来事が、自分たちの住む土地や今の時代と関係していることも読み取ることができ、学習を自分ごととして捉え追究意欲を喚起することにつながった。

300年も前の出来事なのに、今でも感謝され続けているなんて、「布施丹後」は、どんなことをした人なのだろう。とても気になる。早く調べたい。

今、私は平和に暮らしているから、昔ここに住んでいた人たちが命に関わるほど苦しんでいたかもしれないなんて、想像できない。何があったのだろう。

【これから調べていきたいこと ノートより】

手立て② 今と昔の違いに気づき、人々の苦心や努力を理解する具体的な資料の活用



重い石や土は、人が担いで運んでいたんだね。今は、機械で一気に運べるけど、これじゃあ少ししか運べないよ。

今と違って、工事にはたくさんの人手と時間がかかりそう。人が手作業で作った堰や用水路って、どんなものなのかな。見てみたいな。

【道具を手に取り、工事の様子について考える】

今回の学習で、生まれて初めて昔工事に使われた道具を触った。触ってみて道具が「とても重い」ということを感じた。

布施丹後や工事をした人々は、こんな道具しかないのに、長い距離をよく掘ることができたなあと思った。想像していたよりも、この工事は、長い時間がかかり、たくさんの人が関わったのだろう。

昔はショベルカーなどがないから工事のための道具を工夫して作ったということがわかった。今は蛇口をひねるだけで水が出るけど、昔は全く違って水を引くことは大変なことだったのだろう。

道具に直接触れることで重さを実感し、それを用いて長い距離を工事することの大変さを理解している。

工事の苦勞について理解した上で、水を引くことに対する今と昔との大きな違いに気付いている。

【道具に触れて考えたこと ノートより】

掘削工事で使われたとされている道具を手に取り、普段農作業に使う道具で工事が行われていたことに子どもたちは驚いた（資料 10）。また、水を引くことの大変さにも言及し、自分たちの生活と結びつけて考え、今と昔の違いに気付くことができた。

手立て③ 先人の苦心や努力について実感を持って理解する、H先生とのフィールドワーク



【用水路跡を確かめる】

ここが、丹後堰が作られた場所です。川がいくつあるか、わかりますか？

2つの川が合流している。水の流れも速いし、せき止める工事をしたなんて、苦労したんだろうな。

用水路って、こんなに深くて大きいの！これを人の手で作ったなんて、どれだけの苦労があったんだろう。

この用水路は、私が小学生くらいの頃まで使われていたのですよ。



【用水路の構造と規模を調べる】

まっすぐ掘ったと思っていたのに、水の通り道をカーブさせるのは大変だったと思う。本物の用水路は深くて大きくて、手作業で掘ったとは思えない。昔の人々は、それだけ村を助けたという強い思いを持っていたのだろう。

今の用水路は草の中や高速道路の下にあるけれど、H先生が子どもの頃まで使われたそう。布施丹後の工事のおかげで私たちの住む地域が発展したのかな、と思った。

【フィールドワークを行って考えたこと ワークシートより】

本物の用水路を見学し、予想以上の規模と工程に驚いた。この活動により、昔の人々の強い思いを理解することができた。

人々の苦心や努力がよりよい地域を作ったことへの、重要な気付きを得ることができた。

丹後堰公園の石碑には工事の様子が詳細に記されており（資料 2）、その期間や動員された人数などを調べることができた。また、用水路と都川との距離を目で見て確認することができ、川の氾濫に備えて高低差を考えて作られていたことや、町の人々が利用しやすい場所にあったことも理解することができた。現在は暗渠となっている用水路の上を歩いてたどり、規模の大きさを目の当たりにしたことで布施丹後や携わった人々の工事にかかる強い思いや功績について実感を持って理解することができた（資料 11～13）。

【仮説 2】

手立て① 子どもが自ら課題を設定し、先人の功績について追究する「いかす」過程の設定

T：実は、千葉市内の他の場所にも、「謎の石」があったのです。

C：布施丹後のような人が他にもいるのかな？調べてみたいな！

C：僕は、もっと調べて、布施丹後について詳しくなりたい。

C：私は、夏休みの自由研究で、日本の点字を作った人がいて、千葉市の小学校の先生だったことを知りました。その人もきっと、布施丹後みたいに人々を助けたと思うから、ぜひ調べてみたい！

ここまでの学習を終えた子どもたちは、「布施丹後の功績について、もっと知りたい。」と考えたり、「他の先人も、布施丹後と同じように人々を救ったのか、知りたい。」と考えたりしており、人々を苦心や努力で救った先人たちに対する興味関心が高まっていた（資料 17）。いずれも、学習を進めることで先人の功績がよりよい社会をつくったことがわかり、地域社会への誇りと愛情を育むことができると考えた。そこで「いかす」過程では 3 つのコースを作り、子どもが自ら設定した課題を追究するための学習に進むこととした。



【青木昆陽の功績を示す石碑】

家族や地域の人に伝えられるくらい、布施丹後のことについてもっと詳しく知りたい。

日本で初めて点字をつくり、多くの人を救った石川倉治はどんな人だったのかを知りたい。

青木昆陽も、きっと努力して人々を救ったのだろう。何をした人なのかを知りたい。

【子どもが設定した課題の例 ノートより】

布施丹後の功績をさらに追究

石川倉治の功績を追究

青木昆陽の功績を追究

手立て② 追究した先人の功績を伝え合い、今とのつながりを考える振り返りの場の設定

布施丹後は自分の村だけではなく、多くの人の命を助けた。布施丹後と人々が堰や用水路を作ったおかげでその後も人々の命が助かり、今ここに私たちがいるのかもしれないと思った。だから、今の時代まで感謝され続けているのだと思う。

布施丹後は、人々と協力して困難を乗り越えて堰や用水路をつつた。布施丹後のおかげで今があり、たくさんの命が救われて、そのおかげで私もいる。だから、この学習は、この地域に住む私たちにとって大切な学習だと感じた。

【「まとめる」過程までを終えての子どもの考え ノートより】

これまでの学習で布施丹後の功績に対する理解を深めることで今の生活とのつながりに気づき、感謝の気持ちや尊敬の念が生まれたことを示す記述が多く見られた（資料 16）。このような子どもたちの思いが「いかす」過程でそれぞれの活動を経て以下のように変容した。

布施丹後の功績をさらに追究

【新たに得た主な知識】

- 江戸時代の農民は忙しく、子どもも朝から晩まで働いていた。年貢を納めていたため、育てた米を食べることはほとんどできなかった。
- 米が育ちにくい土地に住んでいる農民は、食べていくのもやっとであった。
- 天気に左右される毎日を送っていた。

石川倉治の功績を追究

【新たに得た主な知識】

- 外国の点字を 2 年間研究し、1890 年、日本の正式な点字として、倉治の考えた点字が採用された。
- 採用された後も、点字を広めるために努力をした。全国の盲学校に点字一覧を配布したり、点字器を作ったりした。
- そのことにより、点字が全国へ広がっていった。

青木昆陽の功績を追究

【新たに得た主な知識】

- 学者だった昆陽は、飢饉に苦しむ伊豆の人々を救うために研究していたサツマイモを育てて役立てたいと考えた。
- 幕張町で試作を行い、苗がどんどん育て収穫をすることができた。
- そのおかげで、作物がとれないときも餓死する人が少なくなった。

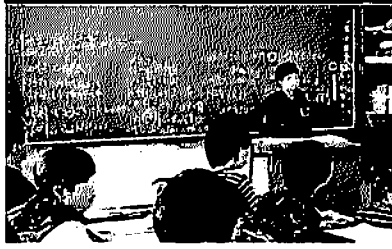
布施丹後の功績をさらに追究した子どもたちは、江戸時代の人々の暮らしについて詳しく調べた。それにより、堰や用水路が完成し水を安定的に確保することがいかに人々の生活を救ったかを理解することができた。倉治・昆陽の功績を追究した子どもたちは、布施丹後の学習を生かして調べ活動を行った（資料 19. 20）。それぞれが苦心や努力を重ねて人々を救ったことや、今も感謝され続けていることを理解し、布施丹後の功績との共通点に気付いた。

布施丹後の功績を紙芝居にして発表した。当時の人々のくらしと功績とを結び付けることにより、苦心や努力が地域社会をよりよいものにしたことへの理解を深めた。

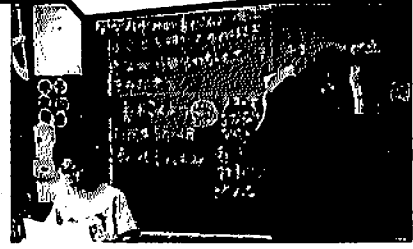


【完成した紙芝居を見合う】

石川倉治・青木昆陽の功績について友だちに伝えるため、子どもが流れを構想して授業を行った。いずれもただ知識を伝えるだけではなく、先人の働きを学び、その功績に対して考えを持って欲しいという願いを込めて、「考えよう」という言葉を学習問題に設定した。この工夫により、先人の功績がよりよい社会をつくったことに対する考えを持つことを促し、地域社会への誇りと愛情を育む一助となった。



【石川倉治・青木昆陽の功績をまとめ、授業を行って友だちに伝える】



今、私たちが住んでいるこの町や地域は、昔の人たちが努力を続けてよくなってきたことがわかった。そのような人たちがいたので、私は、今ここにいるのだと思う。昔の人々に守られたこの町を、これからも大切にしていきたい。

今回学習したどの人たちも、人々を救おうとして苦労し、努力をしていた。私も、こんなふうに努力できる人になりたいと思った。このような人たちが千葉市にいたことを誇りに思う。この学習をすることで、それを知ることができてよかった。

【単元を終えての子どもの考え ノートより】

本単元の終末には、先人の苦心や努力によって地域社会が発展してきたことを理解した上で、誇りに思う気持ちや大切にしていきたいという思いが生まれたことが記されている(資料23)。このことから、子どもたちの地域社会への誇りと愛情が育まれたといえる。

10 成果と今後の課題 (○成果 ●課題)

- 「布施丹後は、なぜ長い間感謝されて続けているのか」という課題について、子どもが主体的に解き明かすよう問題解決的に学習を展開したことにより、先人の功績に対する理解を深めることができた(資料16)。また、身近な地域素材を教材化し、子どもが歴史的事象と自分の生活とのつながりを結びつけながら学習を進めたことで、先人の苦心や努力を実感的に理解することができた。このことにより、先人の功績に対する興味関心を引き出し、「いかす」過程への追究意欲の喚起につながった。
- 地域の歴史に触れる機会がほとんどなく、知識も持っていなかった子どもたちが、本単元の終末には自分の意思と言葉で地域社会への誇りと愛情を表現することができた(資料23)。「いかす」過程では、子どもが作成した紙芝居や、行った授業の様子から、「先人の苦心や努力がよりよい社会をつくった。」ことを学んだ姿を十分に見て取ることができた(資料19~22)。また、地域を好きだと答えた理由に大きな変容が見られた(資料1)。人々の苦心や努力がよりよい社会をつくり、自分たちの生活はその積み重ねの上に成り立っていることを理解した子どもたちに、地域社会への誇りと愛情が育まれた。
- 今後は、地域社会への誇りと愛情がさらに育まれていくよう、県の学習へと進むにあたって系統性を意識した単元計画と実践を行っていく必要がある。年間を通して、地域社会への誇りと愛情が育っていくよう社会科学習を展開したい。

先人の功績を解き明かし、地域社会への誇りと愛情を育む社会科学習
～身近な地域の先人、そして千葉市の先人を通して見えてくる地域社会～

資料編

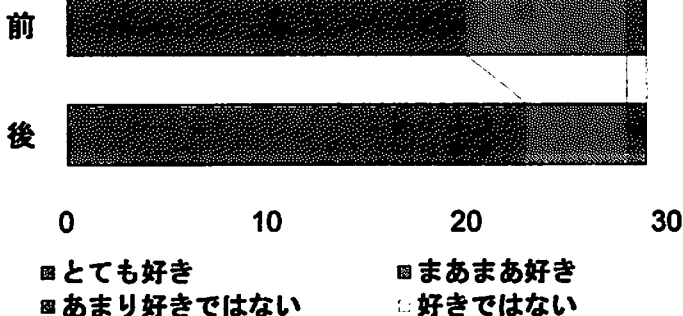
資料1	子どもの変容 意識調査より……………P. 1～2
資料2	丹後堰のあらまし……………P. 2
資料3	単元で扱った周辺地図と位置関係（1881年『図誌』下巻より）…P. 3
資料4	本単元の評価規準……………P. 3
資料5	千葉寺の石碑群と布施丹後について……………P. 4
資料6	都市アイデンティティ確立に向けた基礎調査……………P. 4
資料7	見学・調査活動の様子（千葉寺編）……………P. 5
資料8	予想と学習計画の対応……………P. 6
資料9	当時の様子や人々の願い……………P. 6
資料10	古地図を使って水路を予想し、模型や実物で調べる活動の様子……………P. 7
資料11	見学・調査活動の様子（丹後堰・丹後用水編）……………P. 8
資料12	丹後堰・丹後用水路見学で学んだこと（H先生へ送った手紙より）…P. 8～9
資料13	H先生からのお手紙……………P. 9
資料14	「まとめる」一展開の様子（座席表）……………P. 10
資料15	「まとめる」一展開の様子（ホワイトボードと板書）……………P. 11
資料16	「まとめる」一ノートの記述より……………P. 12
資料17	「いかす」一子どもたちの思い・願い……………P. 12
資料18	千葉市の先人について……………P. 13
資料19	先人の功績を追究する ～布施丹後物語～……………P. 14～15
資料20	先人の功績を追究する ～石川倉治・青木昆陽～……………P. 16
資料21	子どもによる授業① ～青木昆陽の功績について考える～……………P. 17
資料22	子どもによる授業② ～石川倉治の功績について考える～……………P. 17
資料23	単元を終えた子どもの考え……………P. 17～18
資料24	抽出A児の変容……………P. 18～20
資料25	知識の構造図……………P. 20

資料1 子どもの変容 意識調査より

千葉市立鶴沢小学校4年1組（男子15人 女子14人 計29人）

上段：事前（2016年9月実施）、下段：事後（2017年2月実施）

①地域は好きですか。



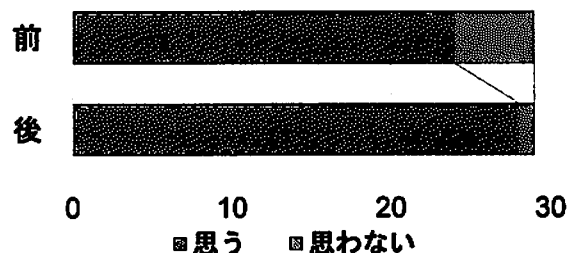
事前の主な理由

- ・楽しいから。
- ・安全だから。
- ・問題がない。
- ・住み慣れている。
- ・優しい人がたくさんいる。
- ・生まれ育った場所だから。
- ・友達がいる。
- ・店や公園が多いから。
- ・話しかけてくれる人がいるから。
- ・悪い人もいる。等

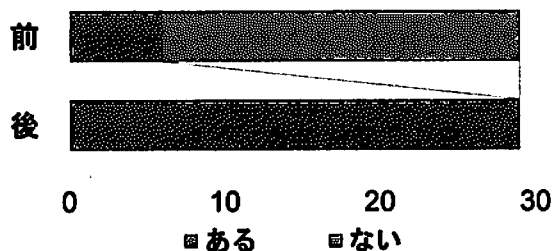
事後の主な理由

- ・いろいろな昔の人がいて、歴史がいっぱいあるから。
- ・人々が協力し合って、平和にするように努力しているから。
- ・昔の人々がずっとささえてきた場所だから。
- ・みんなで支えあっていたから今があるということを知ると、ありがたく感じ、守られている気がするのですと好きでいたい。
- ・常長さんというみんなを救った人がいて、すごいと思った。それをやったところがこの地域だから。
- ・自分達のために働いてくださる人々がたくさんいて、とてもやさしいから。わたしも、おん返しをしたい。等

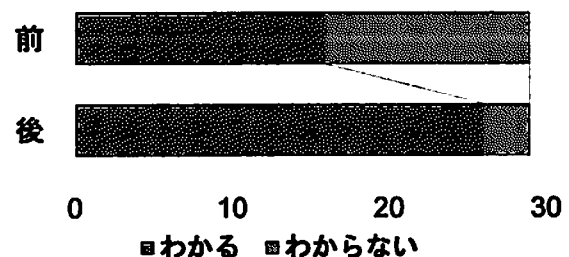
②地域の歴史について、もっと知りたいと思いますか。



③地域の歴史について、知っていることはありますか。

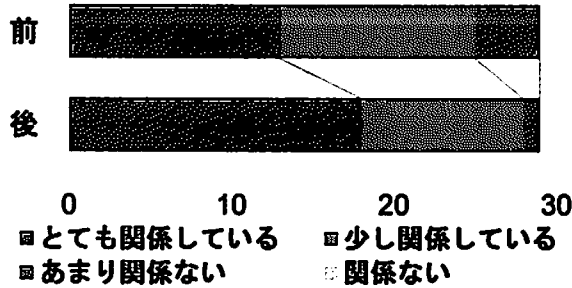


④地域の歴史について、どのように調べたらよいか、わかりますか。

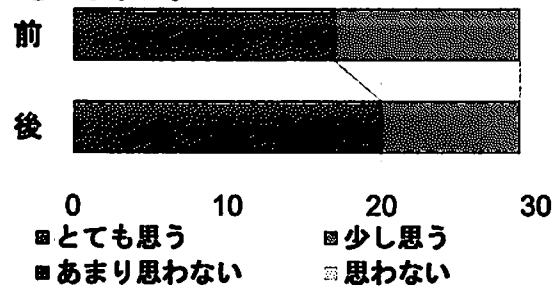


学習後に「地域が好き」と答えた子どもが答えた理由を見ると、事前には見られなかった歴史的事象についての記述が見られた。また、地域の歴史について、もっと知りたいと考えた子どもも増えた(②)。これは、地域の歴史について理解することで、さらに知りたいことが出てきたり、それらをどのように学べばよいのかがわかったりしたためだと考えられる(③④)。

⑤地域の問題は、自分と関係していると思いますか。

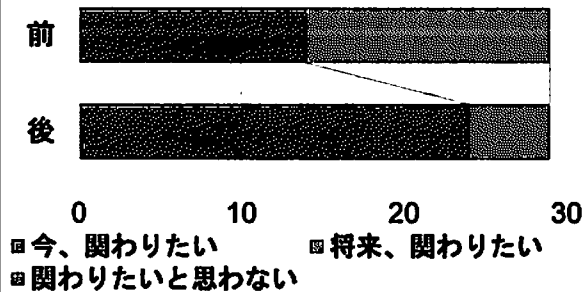


⑥地域社会を良くしていくためには、そこに住む一人ひとりが関わる大切だと思いますか。

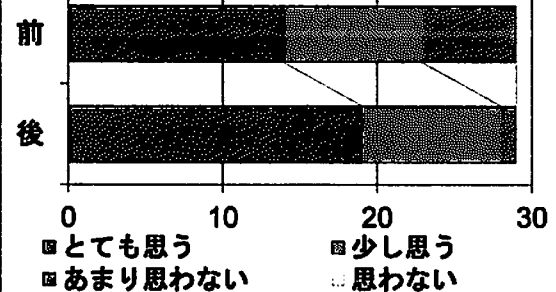


地域の問題について、初めは自分と「少し関係している」、または「あまり関係がない」と感じていた子どもが、学習後には「とても関係している」という意識へと変わった(⑤)。よりよい地域社会を築いていくために、一人ひとりが関わっていくことが大切だと考える子どもも増えている(⑥)。多くの村人が堰や用水路作りに関わり、自分たちの手で水害を克服し、生活を向上させた歴史的事象について学んだことにより、地域社会の人々が参画していくことがよりよい地域社会をつくることを理解したことの表れであると考えることができる。

⑦よりよい地域社会にするために、地域に関わりたいと思いますか。

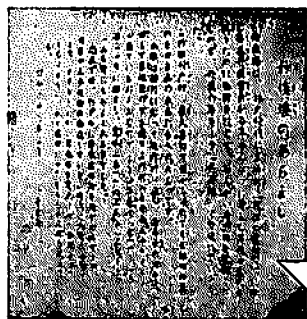


⑧自分自身が関わることで、地域社会がよりよいものになるとと思いますか。



地域社会に対して、「今、できることがあれば自分自身が関わりたい」という子どもが増えた(⑦)。これは、そうすることで地域社会がよりよくなるかもしれないという期待に裏付けられている(⑧)。学習を通して、人々の苦心や努力がよりよい地域社会をつくってきたことに対する誇りと愛情が育ったため、子どもたちは今後の地域社会との関わりを考えることができたと考えられる。このことにより、本研究主題に迫ることで、地域社会に参画する意欲もあわせて育てることができた。

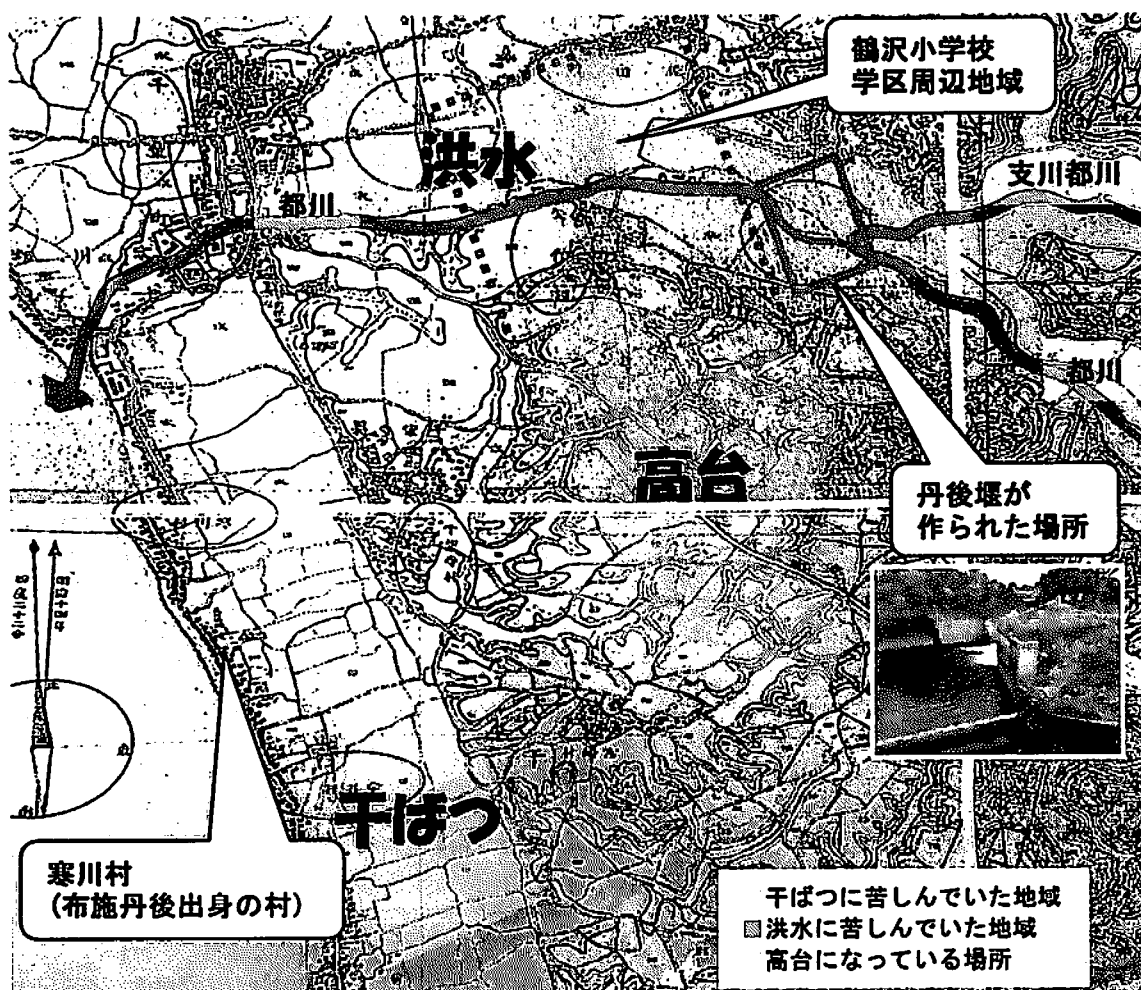
資料2 丹後堰のあらまし



【丹後堰公園入口の石碑】

丹後堰のあらまし
丹後堰は、江戸時代に三川村(現在の寒川町)に住む布施丹後常長が、毎年千ばつに苦しむ周辺の農民を救うために私財を投じて灌漑用水路を建設したもので、丹後の名を取り「丹後堰」と呼ばれていました。
これは川戸村、星久喜村方面から流れてくる都川の流れをせき止め、水を引き入れたものです。
水路は都川に沿って矢作村に通じ、玄鼻台の裾を迂回して葛城台の下を通り三川村へと全長五キロメートルあまりにも及ぶもので、工事は慶長十八年(一六一三年)一月に始まり、寛永二年(一六二五年)五月までの一三年間にも及ぶ大工事でした。
現在では、わずかに用水路の跡を残すのみですが、測量や土木技術の発達していない時代に変な苦勞をして、立派な灌漑用水路を完成させた功績をたたえとともに、永く後世に伝えるため石碑を建立する。
昭和六十三年 千葉市長

資料3 単元で扱った周辺地図と位置関係（1881年『図誌』下巻より）



資料4 本単元の評価規準

観点	評価規準	具体的な子どもの姿
社会的事象への 関心・意欲・態度	人々の生活の歴史的な背景や地域社会の発展を願ってきた人々の生き方に関心を持ち、先人の功績や生活の変化を意欲的に調べたり、地域社会のよりよい発展を考えようとしていたりしている。	・先人の功績に関心を持ち、課題に対して進んで調べようとする。
社会的な 思考・判断・表現	人々の願いや生活の向上と、先人の働きや苦心・努力とを関連付け、人の営みによって地域社会が発展してきたことについて考えたことを表現している。	・人々の苦心や努力によってよりよい地域社会が作られてきたことに気づき、表現している。
観察・資料活用の 技能	地図や模型を使ったり、現地で調査活動を行ったりするなどして必要な情報を集め、読み取ったりまとめたりしている。	・史跡や資料を活用しながら、先人の功績について読み取っている。
社会的事象についての 知識・理解	人々の生活の変化や向上が先人の苦心や努力によるものであることや、それらが地域社会を発展させたことについて理解している。	・地域社会は先人の苦心や努力によってよりよいものとなり、それらがどのようなものであったのかがわかる。

資料5 千葉寺の石碑群と布施丹後について



【千葉寺にある布施丹後に関する石碑】

布施丹後が堰・用水路開削を計画した江戸時代初期、寒川村周辺地区は恒常的に水が足りない状態であった。丹後堰は、これら周辺の用水不足に悩む村々の田畑へ都川の水を引き込むために作られた。寒川村の名主であった布施丹後は、工事に私費を投じ、周辺の関係諸村との調整を積極的に行ったとされている。千葉寺の石碑によると、寒川・千葉寺・千葉・矢作などの村々が丹後堰によって恩恵を受けたことがわかる。

資料6 都市アイデンティティ確立に向けた基礎調査（2014 千葉市）

CHIBAWORD ランキング1位～10位（千葉市の魅力として市民から挙げられたキーワード）

1位	千葉都市モノレール	6位	マリンスタジアム
2位	幕張メッセ	7位	イオンモール幕張新都心
3位	千葉ポートタワー	8位	ジェフユナイテッド千葉・市原
4位	千葉ロッテマリーンズ	9位	そごう千葉店
5位	千葉市動物公園	10位	千葉城（亥鼻城）

1位～9位まで、歴史的な魅力については挙げられていない。千葉市の魅力に対して、市民の意識は、スポーツ施設やショッピング施設などを中心に向いている。これらのことから、千葉市では地域の歴史について、大人にとっても馴染みが薄く、詳しい知識を持っていないか、それを誇りと愛情が持てる対象であると感じていなかったりしている状況があることが伺える。

資料7 見学・調査活動の様子（千葉寺編）



「矢作」って書いてある。ぼくが住んでいる場所のことだ！



「布施丹後」という人が、ずいぶん長い間感謝され続けているよ。



「布施丹後」は、多くの人々の命を救った人のようなね。

【手分けをして石碑から情報を読み取る。】

子どもたちが石碑から読み取った主な情報

- ・「顕彰碑」は、昭和54年に千葉市長が建てた。
- ・「丹後堰水利組合」という団体も石碑を建てている。
- ・大正15年に建てられた石碑には、「三百年記念」と書いてある。
- ・旱害を受ける広大な水田と悲惨な人々の命を見て、「布施丹後守常長」という人が全財産をかけて人々を救った。
- ・明治、大正、昭和とそれぞれの時代に記念碑が建てられている。
- ・「丹後堰水利組合」が、一千万円の「永代供養料」を払った。

石碑から読み取った情報

千葉寺で調べたことを話し合い、学習問題をつくろう。

調べたこと

文字が昔

旱害を受ける広大な水田と

命を救った人

全財産をかけて人々を救った

日本の歴代に光を輝かした人

その名は 布施丹後守常長

千葉の家臣 家臣

石碑から読み取った情報

「丹後堰水利組合」

金一千万円

永代供養料

永遠に

「三百年記念」

明治、大正、昭和

「顕彰碑」

昭和54年

千葉市長

「布施丹後守常長」

今時代まで感謝され続けている

のたろうか。

石碑から読み取った情報

読み取った情報をもとにして考えたこと

学習問題

【学級全体で情報を共有し、学習問題を作る 板書より】

友だちと協力しながら石碑から様々な情報を読み取ってきた子どもたちは、学級全体で調べたことを話し合った。それぞれの情報をつなげて考えると、「布施丹後」という人物が長い間、人々に感謝されて続けていることがわかった。その理由について疑問を持った子どもたちは、それを解決することをめざして学習問題を設定し、追究することとした。

資料10 古地図を使って水路を予想し、模型や実物で調べる活動の様子



堰からまっすぐ水を引いたら、工事が早く終わりそうだよね。



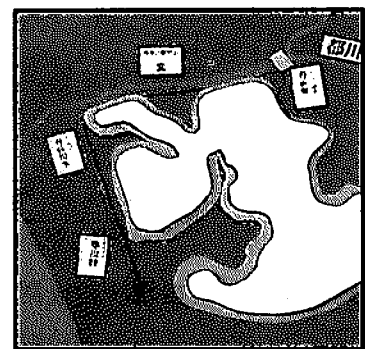
【古地図を使って用水路や堰の場所を予想する。】

寒川村と矢作村の間は、とても長い距離だね。

そういえば、私が下校する時、大きな坂を登るよ。高台になっているからなんだね。

千葉寺町の方は、土地が高くなっている。これでは工事ができないな。





用水路の距離がずいぶん長くなったね。江戸時代に、どうやって工事したのかな。

【土地の高低を表す模型を使って、用水路と堰の場所を確かめる。】



これで地面を掘るなんて、どれだけ工事に時間がかかったのだろう。

重い石や土を、肩に担いで運べるのかな。何人くらいで工事をしたのかな。



【当時使われたと考えられている道具に触れ、工事の様子について考える。】

わたしは、道具を見て、こんなに重い物を使、て作、ていたんだと大へんさを知りました。それもたくさんの努力が必要なので、手伝ってあげたかったです。

わたしは、道具を見て、こんなに重い物を使、て作、ていたんだと大へんさを知りました。それもたくさんの努力が必要なので、手伝ってあげたかったです。

用水路は、都川と高台の間に、たまたま思い立った用水路を作らな、ために使、ていた道具を見、ると、おも、く、こ、う、い、の、し、き、は、たい、へん、そ、う、だ、な、と、思、い、ま、し、た、。

わたしは、明日の見学で、せ、き、や、用水路は、ど、の、よ、う、な、作、り、に、な、っ、て、い、る、の、が、知、り、た、い、で、す、。

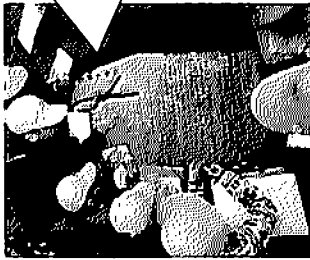
【感想・考えたことと新たな疑問】

工事について、その規模や工事の大変さについて想像することができた。今と昔の違いにも考えが及んでいる。

用水路の距離や、それを作るために使った道具がわかったことで、本物はどのようなつくりになっているのだろうという、次の学習に繋がる問いが生まれた。

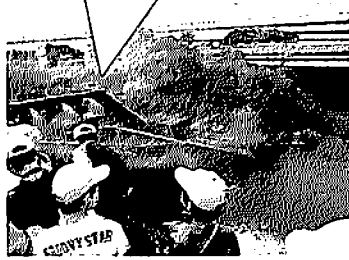
資料 1 1 見学・調査活動の様子（丹後堰・丹後用水編）

工事は全部で7000人が参加して、13年間も続いたんだって！



【工事のあらましを
読み取る】

地図で見た通り、2本の川が合流しているね。



【丹後堰があったと
考えられる場所を望む】

深くて大きいなあ。これを人の手で掘るのは大変なことだな。



【用水路の規模を確かめる】 【用水路の上を
歩く】

いつも歩いているこの道の下が、用水路だったなんて、知らなかった。



私が子どもの頃、まだこの用水路は使われていました。
300年間、この土地の人々には欠かせない水の通り道でした。



【用水路が使われていた頃の話聞く】

川の水があふれても大丈夫なように、高さを考えて作ったんだね。



【都川と用水路の位置関係を調べる】

資料 1 2 丹後堰・丹後用水路見学で学んだこと（H先生へ送った手紙より）

お話を聞いて、布施丹後さんはせきや用水路を作る時間は13年もかかること、用水路の長さは5キロもあり、その深さが、寒川渚川だと5・6メートルくらいあって、工事の大変さがよくわかりました。今のよう、機械などないし昔の人のことを考えると、1日に土はどのくらいほったのか不思議です。き、と、少し働いただけで、大変だったと思います。

①堰は、すごい高い所にあって、しせん都川とも都川の間にあったこと。
・堰を作る場所をさがしたこと。
・2mぐらいの用水路があったこと。
・水の高さが決まること。
②用水路を昔のスコップで、あの深さまでほったということにおどろきました。すごく大変だったのだと伝わります。
・丹後堰公園や丹後堰用水路を見学して、大変だったと感じられます。

①わかったこと
・工事は13年という長い期間おこなわれたこと。
・丹後用水路は5kmとしても長いこと。
・丹後堰と丹後用水路のかげい。
・丹後堰がなぜ名前についたのか。
②考えたこと
工事は5kmにもおこなわれて、とても大変なもので、昔の人に、私たちが、いかに思います。それに堰もとても大きく、川をせきとめるほどなので、工事はとてもおそろしかったと思います。

丹後堰公園にあるみや、川の上りゅうへん、といふ5kmもほるとはとても大変で、生活をいつと事もしといふスコップ。
①用水路は、水にし、作る、遠回りして、作ったり、高台で水が下か上には、流れないから遠回りしたといふことがわかりました。

席長さんは5kmもの長いきりに用水路
 を作ったからすごいとおもった。①首はか
 が無いので、すべて手作業②村の人々
 が苦しんでいたから人々のために3年もか
 けて作った。
 高台だからわざわざジグザグ
 に作った。
 丹後堰や用水路を作り村をすく
 今のような住みやすい町ができた
 じゃないのかなと思いました。

① 1613年に始まり1626年におおる13年
もなる大工事だった。
・ 塙を作る場所にごくごまっていた。
・ 江戸から昭和五十年代まで使われた。
・ 約五キロにもおよんだ。
② 13年もやっていただけにきりめない。
丹後さんはすごいと思う。
・ 五キロも昔のきでわでほろなんです
ごい。
・ せきを作らずで水を送りつけた。

「手作業で作られた、本物の堰や用水路はどうなっているのか、調べたい。」という追究意欲を持った子どもたちは、フィールドワークによって多くのことを考え、学ぶことができた。用水路の大きさと深さを目の当たりにして工事の大変さを実感したり、用水路跡の一部をたどって歩き、距離の長さを体感したりすることで、先人の苦心や努力について、実感を持って理解した。また、知りたかったことや予想したこと等を質問したり教えていただいたりするなど、H先生とかかわりながら学習を行うことで、より深い知識を得ることができた。このようにして理解を深めた子どもたちは、困難な状況から村を救おうと努力した先人のおかげで地域が発展してきたのではないかとということに気が付き始めた。

資料 13 H先生からのお手紙

「去年の暮に皆さんから、布施丹後の足跡を
たどろ」という学習会のもとめをいただきました
それを読んで私はたいへんうれしくなりました
それは、皆さんの学習したあとかし、かりと記録で
残っているからです。

特に感じしたのは、わがたこが非常に具体的
に書かれていたことです。「何となくわがたこはなく
……」のところがわがたことしてあることです。勉強
する上で大切なのは、何がわかって何がわかってなかつた
かを、自分で感じるということです。わがたこは、いかに、いかに
うすれば、また次の学習のスタートになります。

布施丹後はたしかにたいへんうらやま仕事をしました
でも、布施丹後について、まだわがたこないこともたくさんあ
ります。そのわがたこないことについても気づいた人もい
ました。

本当に私も皆さんといっしょに勉強してよかったと今
つくづく思っています。

子どもたちが先人の苦心や努力について具体的に理解したことが、H先生にいただいたお返事からも読み取ることができる。H先生とのフィールドワークは、理解を深めるために有効であったといえる。

資料14 「まとめる」—展開の様子（座席表）

28 前に思っていたことは違った・用水路を人の手で掘った・5キロの道のり・13年間の工事・驚いた・そんな用水路を実際に作ったなんてすごい。	13 考えがかけなかった→今は自分の考えが書けるようになったから成長した。	4 今回の学習で、常長さんについて知ることができて本当に良かった。遠い繋がりだけど、私たちが常長さんたちは繋がっていると感じた。	18 常長さんや昔の人々が行ったこの工事は、そのあとの人々まで教い続けた。だから、今でも感謝され続けたのだということがはつきりとわかった。	3 常長についてよくわかってきた・今はすごい人、優しい人だと思う。感謝し続けたい。	14 丹後堰さんと言っていた・前より千葉のことに詳しくなった。今があるのも、このような人たちのおかげなんだと思うようになった。 ため池を作った。
21 丹後堰などは何も知らなかった・関係ないと思っていた→丹後さんがいてくれたおかげで、今千葉市は発展しているのだと思った。 長い距離を、13年間かけて5キロも掘った。	25 話し合ったことで色々な意見が出て、話し合っってよかったと思った。	2 常長さんや人々は、どれだけ大変なことでもやり遂げた。そんな人たちのことを、これからも忘れないでいたい。	8 学習前は堰を名前だと思っていた。学習をして詳しくわかり、どれだけすごいことをしていたのかがわかった。 思ったことを書き残した	15 世代を超えて続くすごいことをした・「どうでもいい」→用水路や堰がないと自分もない→大切なことだ 1日130人もの人たちが、40日かけて堰の工事についてきた。	26 見学で謎が深まる→調べるとフィールドワークで謎が解けそう→学校で話し合っってわかったことが山のように出た。
19 社会が苦手だった→友達との話し合い活動を通して楽しさを感じた→気づいたら楽しくなっていた。	12 正事で村人に被害を出していたが、人々から感謝されたり、リレー活動でつながった。	1 貧しい生活・お金よりお米・優しい・興味がなかった→早く調べればよかった！ 千葉市にミステリーストーンがあり、感謝され続けている。	9 今の自分がいるのは昔のおかげ・丹後さんの凄さや伝えたいことがわかってきた。みんなに伝えたい。 用水路は都川より高いところに作った→水が引き、ゴミなどが取れるようになった→取れ高4倍に。	27 私たちが住んでいる地域に、こんな歴史が隠れていたなんて驚いた。他にも、もっと調べてみたい。	10 常長さんや昔の人たちの努力がなければ、今の生活はないかもしれないと思った。
11 村人の様子をしっかりと見て行動した→コメが取れない、洪水で困っていた、年貢が重い 掘り、計画を立てて実行した。ため池を作った。川より高い位置に、13年間、54日、正事で掘る。	6 学習を通して詳しいことがわかり、感謝されている理由もわかった。私も、小さいことでも人を助けられるようにしたいと思った。感謝し続けたい。	23 欠席	7 全財産をかけて13年間も・村の人たちを救うため場所を探した・5キロもすきや鉄で一前は全く知らなかったけれど、すごい人だとわかった。	20 日本語未習得のため、ノート未記入	16 幸せだと思っていた→一本当は苦しい生活だったから寂しかった・苦しみに立ち向かう姿に感動・諦めない姿にも感動・一言でまとめられない 反対されても諦めなかった。

細字…ノートの記述

太字…学級全体への発言

これまで学習した知識



知識をもとにした考え

小グループでの話し合いでは、これまで学んできた知識を関連付けることはできたと言え難かった。

そこで学級全体で話し合い、意見を出し合うと、学んだことを根拠にして布施丹後の人物像を考えたり、その功績に対する自分の意見を持つたりすることができた。

資料15 「まとめる」—展開の様子（ホワイトボードと板書）



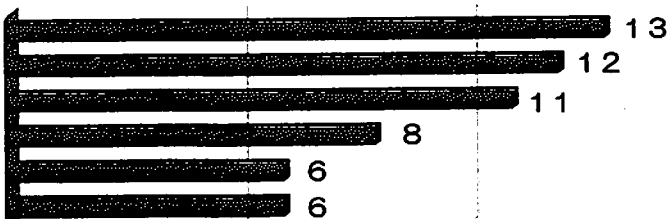
【小グループで話し合う様子】



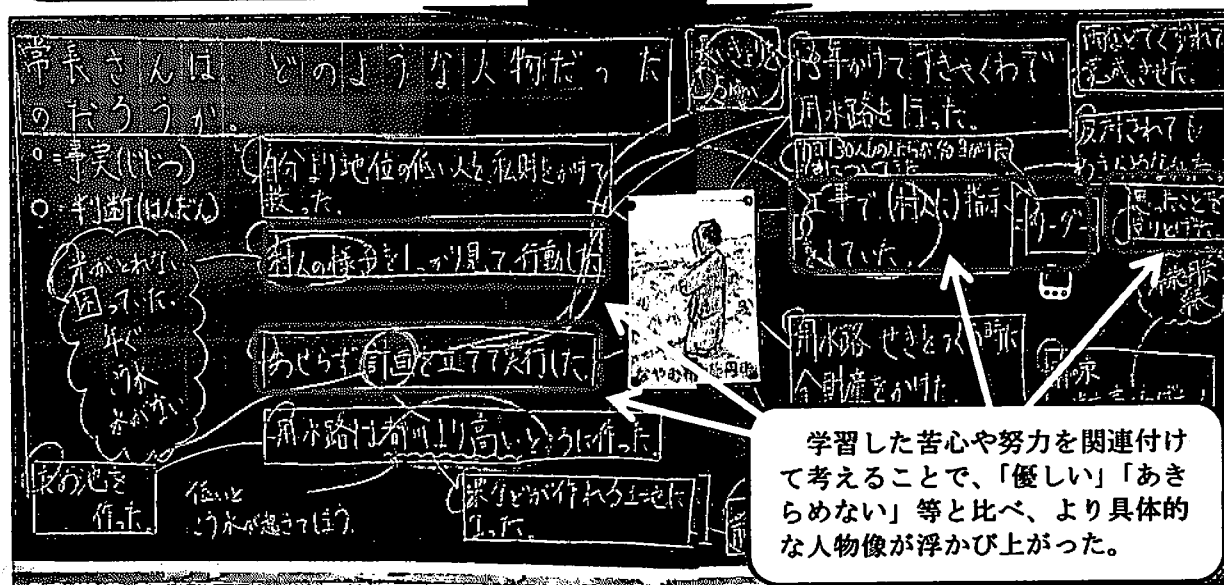
【小グループでまとめたホワイトボードの一部】

話し合いで出された主なキーワード（自由記述・複数回答可）

困難に負けず、堰・用水路を作った
13年間、5kmの工事を行った
村を救うため、全財産をかけた
工事後、人々の生活が向上した
用水路が計画的に作られた
多くの人々の協力を得た



困難（地主による堰・用水路建設の反対や用水路決壊等）にも負けず工事を行ったことや、長い時間と距離を完成させたことなど、全ての子どもがキーワードを書き込むことができた。しかし、人物像については「優しい」「あきらめない」等、一般的なものに止まった。学習してきたことを生かしてより具体的な人物像とするため、学級全体で練り上げる活動を行った。



学習した苦心や努力を関連付けて考えることで、「優しい」「あきらめない」等と比べ、より具体的な人物像が浮かび上がった。

【学級全体で話し合った結果】

が分かりました。この学習は、して
 永遠にして大切で、「社会の勉強だから
こういうものをしない、自分たちにして
いうことで大切で、もししたら、
手につかぬ長え、のかかりで、スゴ
いことをする人がいなかでしかない。
うね長えのあかげを今がかり。
うね長えのあかげです。くまの命が
救われた。つね長えは、私たちにと
しても、とても大切な人です。うね長
えのあかげ」で、おかしな話、つね長
えがどうございまして、そして、
あらがれさまでした。

自分の村だけでなく、多くの人の命を助け、私達の、^{ご先祖さん}布田後守常長さんが、用水路を作った。おかげで、命が助かったから、今、ここに、私達がいるから、多くの人が、生まれたから、たはすの命を、常長さんが救ってくれたおかげで、生きているから、^今とておかげで、^今に生かされているのだらうと、思っています。

布施丹後守常長さんのおかげで13年間あきら
めず用水路をつくってくれたので米のとれたあ
がかり千葉で売って人した士士色に
なった。布施丹後守常長さんに感
したギン太と思いました。

夏休みの自由研究で点字について調べました。点字をつくった外国の「ルイ・ブライユ」についてはわかりましたが、日本人で点字をつくった人についてはまだ知りません。石川倉治はどんな人なのか、詳しく調べたいです。

【次の学習を選んだ子どもの考えの一部 ノートより】

12

資料 18 千葉市の先人について

6

千葉市の発展につくした人々

みなさんの取組や努力のおかげで、このように発展が実現しました。

記念碑を訪ねてみよう

みんなは町にこの記念碑を調べに行きました。

「昔、人々が食べ物にこまらないうように、サツマイモをためしに植えた人がいたそうだよ。」



「そのおかげで町は食べ物で不足しなかったそうね。」

千葉市名譽市民
千葉市では、市に
なじみ深く、文化
や教育など人々の
ために努めて、市
民から尊敬される
人々に「千葉市名譽
市民」のしょうひを
授け、その功績を
たたえています。ど
んな人があるのか、
調べてみましょう。



「千葉市長だった人で、みんなの生活がよくなるように、さまざまなことをしたので、名譽市民になった人もいたよ。」

「花見川と平戸川をつないで、印旛沼のこの水をなくすという願いは、250年もかかってかなったそうだよ。」



「大昔のハスの実を見つけて、今の時代にその花をさかせた人の記念碑だよ。」



「昔、水田の水が不足しないように、用水路を作った人もいたそうよ。」



ここでは、「大賀一郎とオオガハス」と「丹後堀をついた布施丹後」「花見川を開く」について調べました。みなさんも、千葉市の発展につくした人々を一人取り上げて、どんなことをしたのか調べてみましょう。

【千葉市の先人と記念碑等 副読本「わたしたちの千葉市」より】

「いかす」過程のために選んだ千葉市の先人

青木 昆陽 (サツマイモの栽培)	大賀 一郎 (大賀ハスの研究、開花)
宮内 三朗 (行政・名譽市民)	石川 倉治 (日本式点字の発明 上記マップに追加)

【子どもが追究した先人①青木昆陽について】

青木昆陽は、徳川吉宗の政権下にあった江戸幕府の命を受けてさつまいもの栽培に成功した。その後さつまいもの栽培は人々の手によって各所に広がり、飢饉に喘ぐ多くの人々が救われた。特に試作地の一つである幕張町では、1782年や1833年に起きた大飢饉の時も、餓死者が出なかったと言われている。その功績を称え、この地域の人々は石碑と昆陽神社を建て、昆陽を「芋神様」として祭り、敬ってきた。

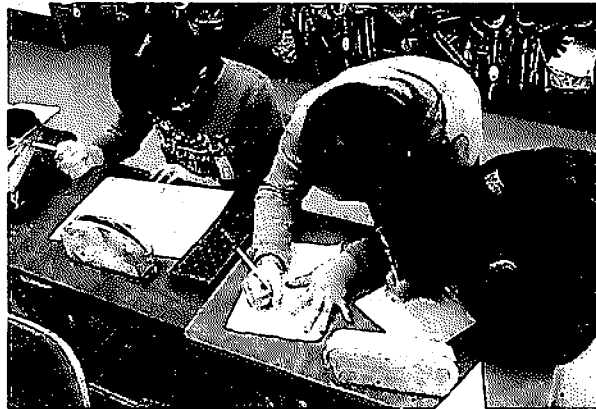
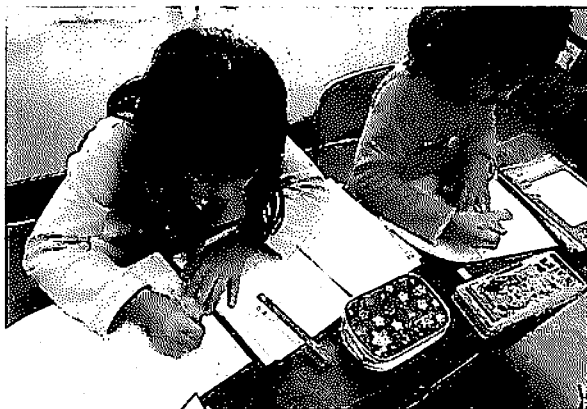
【子どもが追究した先人②石川倉治について】

石川倉治は、1880年、幕張浜田小学校（現千葉市立幕張小学校）教諭として勤務。千葉市で教員生活をスタートさせた。1887年には東京盲啞学校助教諭となり、日本式点字の考案に尽力した。1890年、ルイ・ブライユが考案した6点式点字で日本語を表記することに成功。同年、正式に採用され、11月1日が「点字の日」と定められた。石川は、「点字タイプライター」等も開発し、日本点字の父と呼ばれた。

千葉市にゆかりのある石川倉治・青木昆陽の功績を扱うことで、子どもたちは、「先人の苦心や努力が人々の生活をよりよいものにした」ということを理解することができる。そして学級全体で伝え合うことにより、布施丹後の功績と合わせて「そうした人々がよりよい社会をつくってきた」ということについて考え、主題に迫ることができる考えた。

④わたしは、どうして大へんな作業なの
のに、ふせたん後さんは自分から作ったのか
が、不思議です。ですが、5kmもくわやジャ

【1次で解決しなかった課題の一例 ノートより】

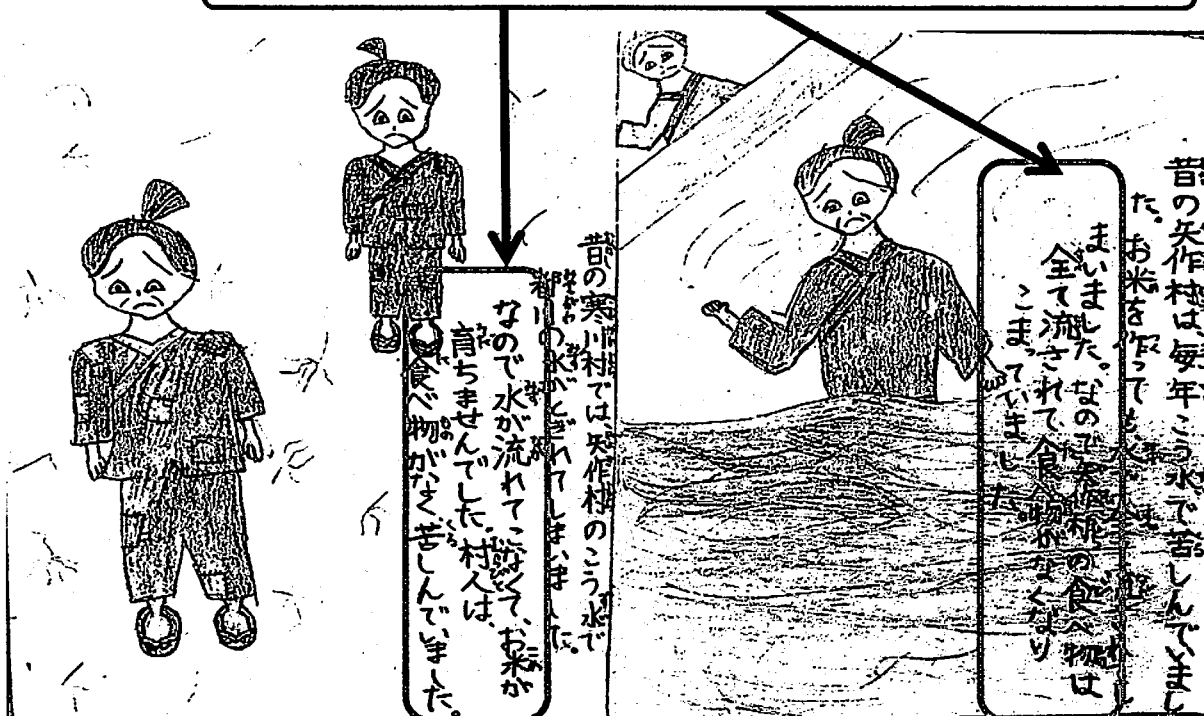


【課題について、資料を用いて調べる。】

昔の農民は、とても貧しい暮らしをしていた人が多かったんだね。重い年貢も取られてしまって、作った作物を食べることができないこともあったなんて。今と全く違う生活だったんだ。

今とは違って、当時の人々は住むところを変えることができなかったんだね。作物が取れるかどうかは命にも関わるから、あんなに大変な工事を諦めずにやり遂げたんだね。

課題の追究を通して理解した、当時の農民の生活の様子が表れている。



「昔は堀を掘るの北方面についで、
厩小路を廻りて村と千代木村を通
つて奥川村の方までつくろうと思へた
けれど、村長と二人は言ひました。
『それは駄目だ。それは村長は一つく
るの外に人の命にかけてゐるんだ』
と云ふことはきいて退すように思ひま
した。そのかたでいる命をホリ水の中から
うつらせてくださう。」

「村長さん、おれはよく知つたよ。上つて
おれは長きに暇や暇はないをつくても
いいことにしました。」

結果はどうなるの
かなあ...



ついにふせたんごつねなながさんが工事を
はじめました。

15

功績について、短い言葉で端的に表している。

日本式の点字で光をもたらした人 —石川倉次—

石川倉次

石川倉次の人生

石川倉次は1859年静岡で生まれ、少年時代は千葉県市原市の乃木で過ごし、1875年16才に千葉県内の小学校の先生をし、国語教育の研究もしていました。しかし11年たつた1886年1月、たびたびいじめを受けていた小西信八先生から東京の盲学校に誘われ、2月にもはらの地をばなれ、東京に行き、4月に盲学校の先生になりました。倉次は、勉強をさぼらせておぼえさせ、ずすをつけてさいっていました。そしてあるとき、ルイ・ブラユの点字を知り、2年研究を続け、明治23年(1890)11月1日倉次の点字が正式採用決定

しました。このとき倉次は31才で上京して5年目でした。そして、倉次は、点字機やその他色々な業績をきずき、昭和19年12月23日千葉県安中市で85才の生涯を閉じました。
点字完成の道のり
石川倉次はまず点字を八つの点の組み合わせにしましたが、小西先生が六点のにした方がよいといひ、同学校の先生たちと研究をして夕食をわすれることもあり、そして、石川倉次の点字が作られ日本で採用されました。



【調べたことをもとに、子どもが授業用に作成した資料(石川倉治について)】

幕張地区のエピソードを載せ、千葉市とのつながりを表現している。

★ 青木こんよう先生 ★

生年月日
1898年5月12日生まれ。
さかな屋からうかん字者。
1769年7月2日のしょうかい
を終える。



青木こんよう先生の一生
京都古学の「はのい」東洋に入門。
実言正的な学風を身につける。
伊戸の人々の話を聞いてさつまいもの栽培に目さめる。松岡定庵のさつまいも研究の本を
読み、千葉でさつまいもを育てる。さつまいもの栽培方法を積極的に進める。その功績は
大きい。今のまじはりに2ヶ所九十九里浜
に1ヶ所、甘しう作あとがある。あと長さき地
方にもある。
72さい、かせか死してしょうかいを終える。

【青木こんよう江戸】
じかく(昔)く学者、名は
青木上(昆陽)。
江戸生まれ。
食りょうとなるさつまい
もをそだてていはい
するこしに成工がい。
かんし(さつまいも)
先生とよはれるよう
に。



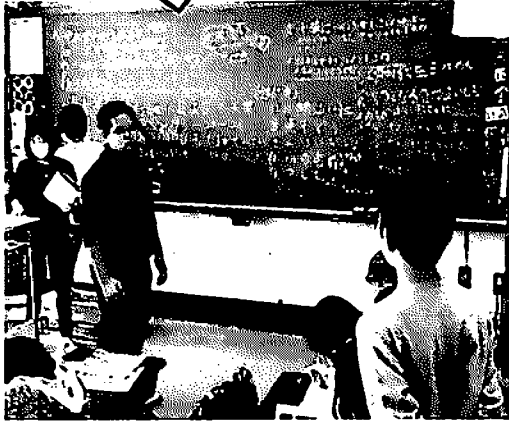
〈所ざいせ〉 目黒区下目黒 3-20-2 目黒不動さん(172) 建ひ年) 1911(明治44)年 目黒不動 せんけいだい	〈本当のあ前〉 じいじはとれは 青木こんよう とよはれて いるが、... 本当のあ前 「あつのり」と いう。
--	---

【調べたことをもとに、子どもが授業用に作成した資料(青木昆陽について)】

調べたことを伝える方法について、子どもたちは授業で伝えることを選んだ。それぞれの先人の功績を伝えるには資料が必要であることに気付くと、要点を絞ってまとめた。短い時間の学習であったため、それほど多くのことを調べることができたわけではなかったが、先人の苦心や努力を探るという学習の目的をはっきりさせ、友だちと協力して調べ学習に取り組んだため、先人の功績について資料から読み取り、理解することができた。

資料2 1 子どもによる授業① ～青木昆陽の功績について考える～

話し手、書き手、聞き手を役割分担し、対話をしながら青木昆陽の功績に迫る。



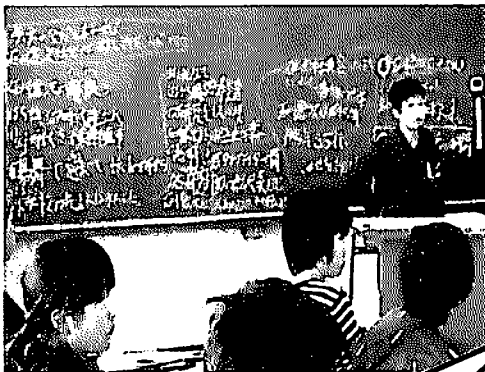
【授業の様子】

授業を行った子どもが考えた学習問題。知識を伝達するだけではなく、先人の功績について自分の考えを持つことができるようにしたいという思いが込められている。

それぞれが青木くんよう先生の
ことを調べた話を聞きなが
ら自分の考えを書こう
青木くんよう
1698年5月12日... あつり
く所ざいち
目黒区下目黒
3-20-26
目黒不動そんけい
生年学日

【授業を受けた子どものノートの一部】

資料2 2 子どもによる授業② ～石川倉治の功績について考える～



【授業の様子】

「先人の功績が人々を救った」という視点を持って学習を進めたため、石川倉治の功績が日本全体の人々の生活の向上につながったことについて考えることができている。

石川倉次さんは、ただ点字を
作。たんじゃなくて、日本の人
々のことを思。て作。たと考え
ました。また私は、日本につく
した人みたいだと思いまし
た。 自分なり

石川倉次さんは、バカ温たかく
て、優しい人だと思いました。
日本の人々がこれから使える
ようにと作った点字だと思、たか
うです。

【授業を受けた子どもの考え ノートより】

資料2 3 単元を終えた子どもの考え

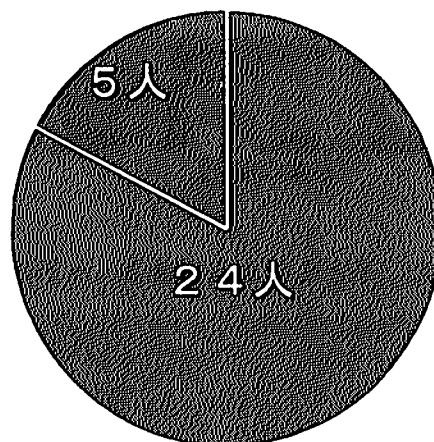
②この町は、昔の人達がつなげてきた
町で、あり昔の人かいたので、私は
今ここにいます。昔の人に守られた
この町を、大切にしたいです。

②私は、千葉市にこんな優しく
て、人の命を大切に想っている
人がいる。と考えると、ありが
とうと言いたくて、たまりませ
ん。そして、歴史に残った人
の人のおかげで、人の命が助か
り、「今」があると思います。

①石川倉次さん、青木陽さん、
布施丹後常長さんたちが自分から
やろうとすることに、すごくかん
どしました。でも、私もがん
ばりたい。こういうことがあつ
たらこんなふうになりたいです。
②このようなかた方がいたことで
千葉県千葉市にいたことをほこり
に思っています。私はし、てよか
いです。

【ノートより】

「誇り」「感謝」「大切にしたい」のい
ずれかの記述が見られた子どもの人数



見られた 5人
その他の記述 24人
(日本語未習得1人を含む)

「昔の人達がつなげてきた」「(昔の人々に) ありがとうと言いたい」「(このような人々が
いたことを) 誇りに思う」という記述より、千葉市にゆかりのある3人の人物について学習
をし、伝え合う活動を行ったことで、「人々の苦心・努力が地域社会をつくった」ことについ
て考えることができたことがわかった。同様の記述が多く見られ、本単元を通して、子ども
の内に地域社会への誇りと愛情が育まれた姿が見て取れた。日本語が未習得の子ども1人を
除く4人は、いずれもよりよい社会が人々の苦心や努力によってつくられたものであること
への思いを見取ることはできなかったが、学習で扱った3人の先人に対する感謝の念を持っ
たことを示す記述が見られた。

資料24 抽出A児の変容

【学習前後の意識調査より】

(1) 地域が好きですか。
ア とても好き イ まあまあ好き ウ あまり好きではない エ 好きではない

(2) それはなぜですか。

お家が近くにあって公園がすごく近いから

(3) これからも、この地域に住みたいと思いますか。

ア そう思う イ まあまあ思う ウ あまり思わない エ 思わない

(4) それはなぜですか。

公園が近くにあるのでいつでも遊びたいから

(1) 地域が好きですか。
ア とても好き イ まあまあ好き ウ あまり好きではない エ 好きではない

(2) それはなぜですか。

いろいろな昔の人歴史がいっぱいあるから

(3) これからも、この地域に住みたいと思いますか。

ア そう思う イ まあまあ思う ウ あまり思わない エ 思わない

(4) それはなぜですか。

もっと昔の人をみんなと言っていたから

(6) 地域の歴史（旧あったできごとや住んでいた人々）について、知っていることはありますか。
☒ 7 ある ☐ イ ない

(7) それはどんなことですか。

のミミダがみつってにうたれた。

(8) 地域の歴史について、知りたいと思いますか。
 ア きょうみがある ☒ イ きょうみはない

(12) 地域の歴史と、自分たちの生活は、かんけいしていると思いますか。
 ア とてもかんけいしていると思う ☐ イ 少しかんけいしていると思う
 ウ あまりかんけいがないと思う ☒ エ かんけいがないと思う

(13) 地域をよくするためには、そこに住む一人一人がかかわることが大切だと思いますか。
 ア とてもそう思う ☒ イ 少しそう思う ウ あまりそう思わない エ 思わない

(14) ばく・わたしがかわることで、地域をよりよくすることができると思いませんか。
 ア とてもそう思う ☐ イ 少しそう思う ☒ ウ あまりそう思わない エ 思わない

(15) よりよい地域にするために、地域や社会に参入でかわりたいと思いますか。
 ア できることがあれば、今すぐでもかわりたい
☐ イ 将来かわりたい
☒ ウ かわりたいと思わない

【事前】

単元の学習を通して、A児の意識に大きな変化があったことを読み取ることができる。学習前は地域の魅力について、「店」と「公園」という普段利用している施設を挙げていたが、学習後には歴史的事象に対する興味・関心が高まっている姿が見られる。また、地域の問題と自分の生活とが関係していることに気づき、よりよい地域にするために社会に関わりたいという思いも少しずつ芽生え始めた。これは、学習の中で人々の苦心や努力がよりよい地域社会をつくってきたことを理解してきたことに起因すると考えられる。

【考えの変容 各学習のまとめより】

第4時 この辺りは、昔どのような様子だったのだろうか。

人々は水がなかったり水が多すぎたりして困っていた。

「わかったこと」のみの記述に止まっている。

第5時 昔は、どのような時代だったのだろうか。

農民がせっかく毎日頑張って米を育てているのに、武士に米をあげるから（年貢）昔の人々は、とっても貧しい暮らしだったと思う。

自分なりの考えを表現し始めた。

第7～8時 堰や用水路をどのようにして作ったのだろうか。（フィールドワーク後）

わかったこと：用水路の水は高いところには昔はいくことはできないから、山の周りの4～5キロも掘り、すごい努力をしたのだと思った。昔の人がいなかったら、「今」はないと思った。

H先生へ：H先生のおかげでわかったことがいっぱいあった。どんな時も親切に教えてくれたから、嬉しかった。

実物を見て感じたことから、改めて人々の苦心・努力に気付くことができた。わかったことに対する喜びも芽生えている。

第9時 布施丹後は、どのような人物だったのだろうか。

わかったこと：常長さんは村人の様子をしっかりと見て計画を立て、**全財産をかけてまで村を救うために堰や用水路を作ったから、今の時代まで感謝されていた。**

考えたこと：僕はこの学習をやる前は、常長さんはどういう人で、一体何をした人で、なぜ堰や用水路を作っただけで感謝されていたのかわからなかった。けれど今は堰や用水路を作るのはすごく大変だし、お金もいっぱいかかるから（それだけのことをする常長さんは）思いやりもあって（人々から）感謝されていると思った。

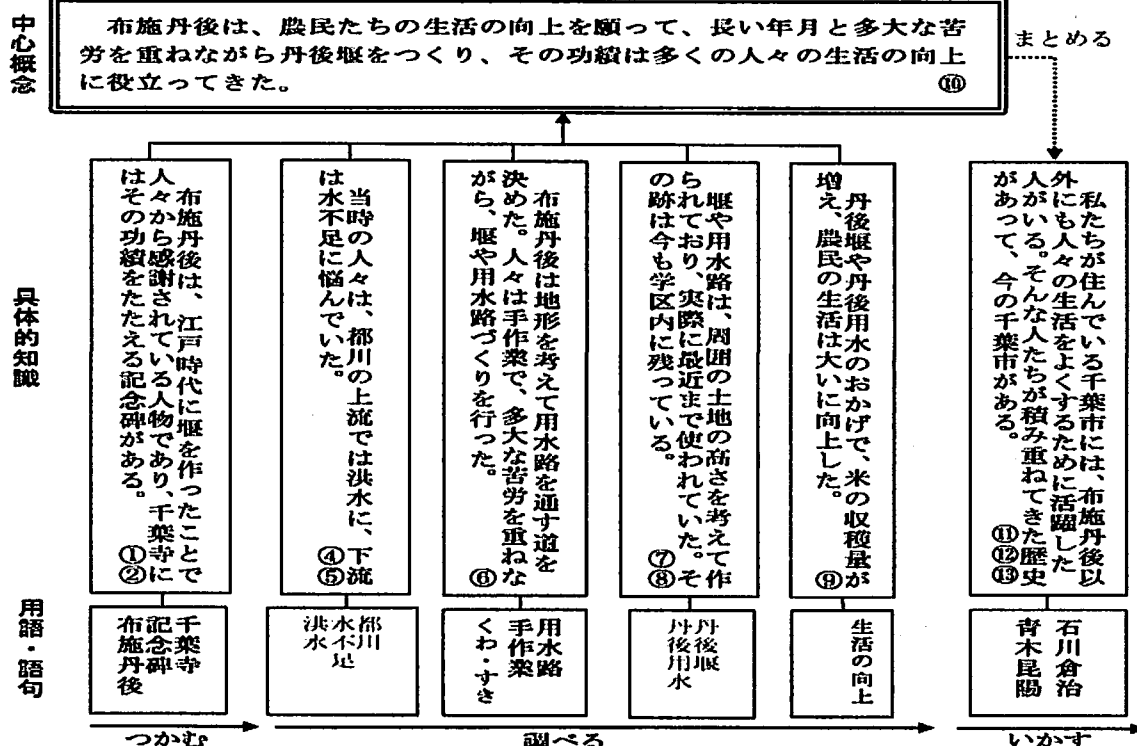
話し合いで進んで意見を発表し、学習問題に対する自分なりの答えを見出した。また、学習前の自分と比べて成長した自分に気付くことができた。主体的に学習に取り組んでいる様子が読み取れる。

「いかす」学習を終えて

青木昆陽は芋を育てて人々を救い、常長さんは洪水から人々を救って、2人とも人々を救ったから偉いんだと思った。石川倉治も同じで、3人は多くの人を、自分が苦勞してまで助けていてすごいと思った。**このような人々が千葉市にいてくれて嬉しいし、少し自慢できる。**

3人の先人の功績に対して共通点を見つけ、そのような人々と自分との繋がりを見出した。「嬉しい」という言葉は、学習を自分ごととして捉え、誇りや愛情が育まれたことを示している。

資料25 知識の構造図



③は学習問題・学習計画をつくる時間のため欠番

参考文献

『古文書で読む 千葉市の今むかし』後藤雅知・吉田伸之編 命書房出版 2016

『千葉いまむかし No. 26』千葉市教育委員会編 2013

『わが町の歴史 千葉』川村優・三浦茂一編著 文一総合出版 1987

『都川文化圏を歩く』千葉の歴史を知る会編著 1975